

2016年3月29日

日本ペイントホールディングス株式会社

日本ペイントホールディングス「ROOMBLOOM」が  
三菱地所レジデンスが発表する「箱の間」の  
パートナー企業として参画します

日本ペイントホールディングス株式会社（本社：大阪市、社長：田堂哲志）は個人ユーザーを対象とする住宅内装用ペイント分野のブランド「ROOMBLOOM」（ルームブルーム）が、この度三菱地所株式会社（本社：東京都千代田区、社長：杉山博孝）・三菱地所レジデンス株式会社（本社：東京都千代田区、社長：小野真路）の新しく発表する「箱の間」の商品企画にパートナーとして参画しますのでお知らせします。

「箱の間」は、世界での違法伐採と国内の森林生産サイクルの荒廃に対するアクションとして「森とまちと人をつなぐ」をテーマに、国産材を使用し、林業・製材・家具加工まで一貫した事業を目指して三菱地所グループが「ROOMBLOOM」を含むパートナーと共に企画した商品です。

様々なライフスタイルやライフステージに対応できるよう配慮された同商品は、マンションに新しい居場所を生み出すアイテムとして「今にあわせて、間取りを着替える。」をコンセプトに、自分で手を加えながら、長く大切に使い継ぐよう設計・開発されています。

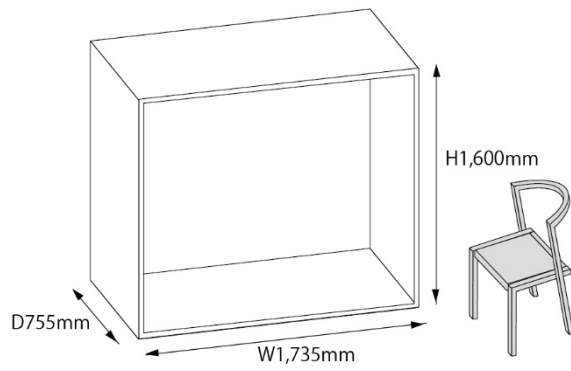
「ROOMBLOOM」がパートナーとして取り組みを開始した背景には、「箱の間」のコンセプトが同ブランドの掲げる「自分の暮らしを自分でつくる」というコンセプトに合致したことにあります。

ペイントの持つ豊かな色彩や自由な表現力を通して、ユーザー自らの手で自分の空間を好みにアレンジし、楽しみながら使い続けていくこと。さらに、DIYを通して育まれる創造力やそこで生まれる人とのコミュニケーションによって、単に空間を作るだけではなく、暮らしを楽しむことにつなげていきたいという思いを共に分かち合いながら参画しています。

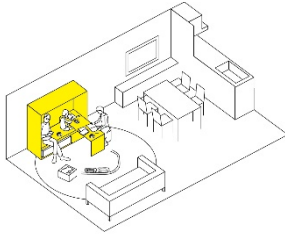
ROOMBLOOMは日本における「インテリアの塗装文化創造」を目指し、今後もライフスタイルに寄り添い、「暮らしを考えるペイント」として新しい視点からペイントを取り入れたライフスタイルを提案します。



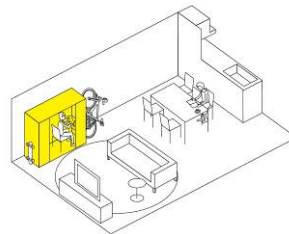
## 【「箱の間」概要】



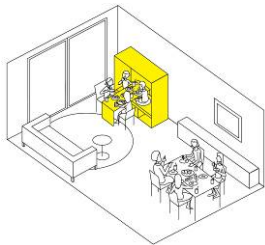
## ■ 「箱の間」設置想定事例



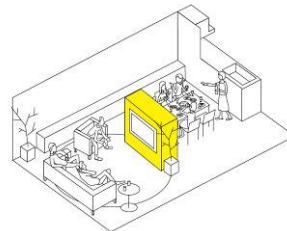
子供が小さいうちは、勉強部屋、遊び場、収納などをリビングの一角に”出張”して設置。



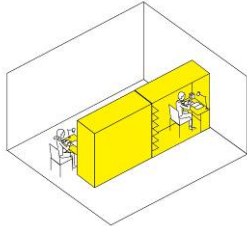
趣味の道具箱や工房として使用。



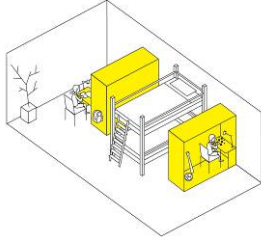
大人用のダイニングテーブルと別に、「箱の間」を子供たち用のダイニングテーブルとして設置。



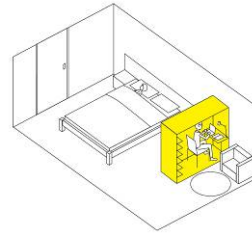
背面を壁として活用。



2 人の子供の子供部屋に 2 つの箱をレイアウトすることで、半個室の空間を 2 人でシェア。



2 人の子供が大きくなったら、2 つの「箱の間」を大きなパーテーションとして利用。2 つの個室が出現。



寝室の中にパーテーション代わりに設置することで、就寝中のパートナーを起こすことなく、書斎として利用。

## 【パートナー】

小泉誠 家具デザイナー

住まいの中で、移動できる居心地の良い空間を、家具と建築の間の「箱」で実現したいと考えました。山梨の森や製材所に伺い、その魅力的な材料からシンプルで心地よい箱を仕立てました。

KOKUYO

一人ひとりのQuality of lifeに寄りそう想いに共感し、一緒にカタチにしたいと考えました。つながりの中で生まれた豊かな価値を広めていきたいと思っています。

FOREST LINK NPO 法人

森と街をつなぐ取り組みを広げていきたいと、常に考えています。このプロジェクトを通じて、人・モノ・コトについて互いの知恵を共有し、新しい価値を生みだしたいと考えました。

日本ペイント「ROOMBLOOM」

自分のスペースだからこそ自由に楽しんでもらう。ペイントがそんなきっかけになれたなら。豊かな色彩と自由な表現性を通して空間を作る楽しさを提供したいと考えました。

三菱地所ホーム

住まいに、もっと木のぬくもりを取り入れたいと考えました。木造住宅だけでなく、集合住宅にも使える「箱の間」で居心地の良い空間を作る取り組み、さらにインテリア面にも参画しています。

三菱地所

日本の森を保全し、木材の良さを実感するために、私たちができることを考えました。都市と森林が互いにその価値を共有しあえるような、サステナブルな社会を目指していきます。

以上